



学会で受賞した（左から）中川さん、五味さん、安藤さん、中沢さん（18日、甲府市で）

## 山梨英和高 ダブル受賞

環境科学会 粘り強い研究 結実

愛知県で13～14日に行われた環境に関する研究成果を発表する「環境科学会2019年会」で、山梨英和高校（甲府市愛宕町）自然科学部が、大学生以下の部でポスター発表の最優秀賞と優秀賞を受賞した。同部門に出場した計13グループのうち高校生は同校だけだ。顧問の山本紘治教諭は、「粘り強い研究の成果。大學生にも負けない素晴らしい発表だ」とたたえる。

最優秀賞を得たのは、(2) 年生の五味真奈美さん(17)、中川春菜さん(16)の「富士山ハリモミ林の枯死の原因を探る」と題した研究。山中湖村にあるハリモミの純林は国の天然記念物に指定され、かつて4000本以上が生えていたが、近年は10分の1以下に減少している。2人は林の土にいるダニやトビムシなどの生物に着目。4か月かけて顕微鏡で調べ、ハリモミが減った後も土が豊かなままで残り、ハリモミが再び育つ可能性があることを突き止めた。五味さんは「顕微鏡を見続けて全身が痛くなつたが、研究が認められてうれしい」と喜んだ。

優秀賞に輝いた2年生の安藤千恵梨さん(16)と中沢志歩さん(16)は、県内2河川のミズダニを数え、水質の豊かさを調べた。安藤さんは「県内のミズダニの生態をまとめた図鑑を作りたい」と意気込んでいた。